

第49回日本児童文学学会賞の決定について

日本児童文学学会賞、同奨励賞および同特別賞は、わが国の児童文学・児童文化研究の発展に寄与する、年度ごとの優れた業績に贈られます。

今回は、二〇二四年七月から二〇二五年六月までの一年間に発表された児童文学・児童文化分野に関する研究・評論の中から、日本児童文学学会会員の推薦等をもとに、日本児童文学学会賞選考委員会（水間千恵委員長 浅野法子・鶴野祐介・佐藤宗子・横川寿美子の各委員）が選考にあたりました。結果は次のとおりです。

なお、授賞式は、一月二九日（土）午後四時二〇分より、当学会第64回研究大会の席上にて行います。

二〇二五年一〇月

日本児童文学学会会長 浅岡 靖央

第49回日本児童文学学会賞

◇川島隆（かわしま たかし）『ハイジの生みの親ヨハンナ・シュペーリ』青弓社二〇二四年八月二六日

【贈賞の理由】本書は、ヨハンナ・シュペーリと『ハイジ』関連資料についての、近年の資料発掘や伝記研究の成果を活かし、一九世紀スイスの社会・文化状況を踏まえ、ドイツ文学における教養小説の系譜への同作の位置づけ、ジェンダー論的な観点からの新たなアプローチ、同作から派生したメディア横断のコンテンツ群への継入れと、作家シュペーリと『ハイジ』現象双方の研究を合体させた実証的かつ意欲的な研究書である。キリスト教との関連や人物造型の変化など丁寧な作品解釈がなされる一方、「アルプスの少女」神話の系譜を歴史的にもジャンル横断的にも追究する幅広さを持ち、比較文学・比較文化的な意義も強く認められる研究である。

【受賞者の略歴】京都府生まれ。京都大学大学院博士後期課程指導認定退学。博士（文学）。京都大学大学院文学研究科教授。専攻はドイツ文学。著書に『カフカの（中国）と同時代言説——黄禍ユダヤ人・男性同盟』（彩流社、二〇一〇）、『図説アルプスの少女ハイジ——『ハイジ』でよみとく19世紀スイス』（共著、河出書房新社、二〇二二）など。

第49回日本児童文学学会奨励賞

◇山田昭子（やまだ あきこ）『吉屋信子——小説の枠を超えて』春風社二〇二四年七月二一日

【贈賞の理由】本書は、童話・少女小説・大衆小説・評伝小説・歴史小説等、複数のジャンルを手がけた多作な作家・吉屋信子の仕事を年代順に考察し、多数の文献を駆使して各ジャンル間の関連や接続、共通するテーマ等を解き明かした力作である。先行研究を網羅し取りまとめた最終章「吉屋信子の現在とその展望」と巻末の作品年表は、本書の考察がいかに堅実な書誌研究に支えられているかを示すものであり、今後これらを土台にした著者自身の研究のさらなる発展が望まれると共に、広く少女小説研究・童話研究の新たな活性化につながることを期待される。

【受賞者の略歴】神奈川県生まれ。専修大学大学院文学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程修了。博士（文学）。専修大学・立正大学ほかの非常勤講師をつとめる。主な論文に、『新女苑』における中里恒子の仕事（『芸術至上主義文芸』49）『二〇二三年一月』など。

第49回日本児童文学学会特別賞

◇該当作なし

【謝辞】

本賞の運営にあたり、大阪府立中央図書館国際児童文学館ならびに一般財団法人大阪国際児童文学振興財団よりご協力を得ました。ここに感謝の意を表します。